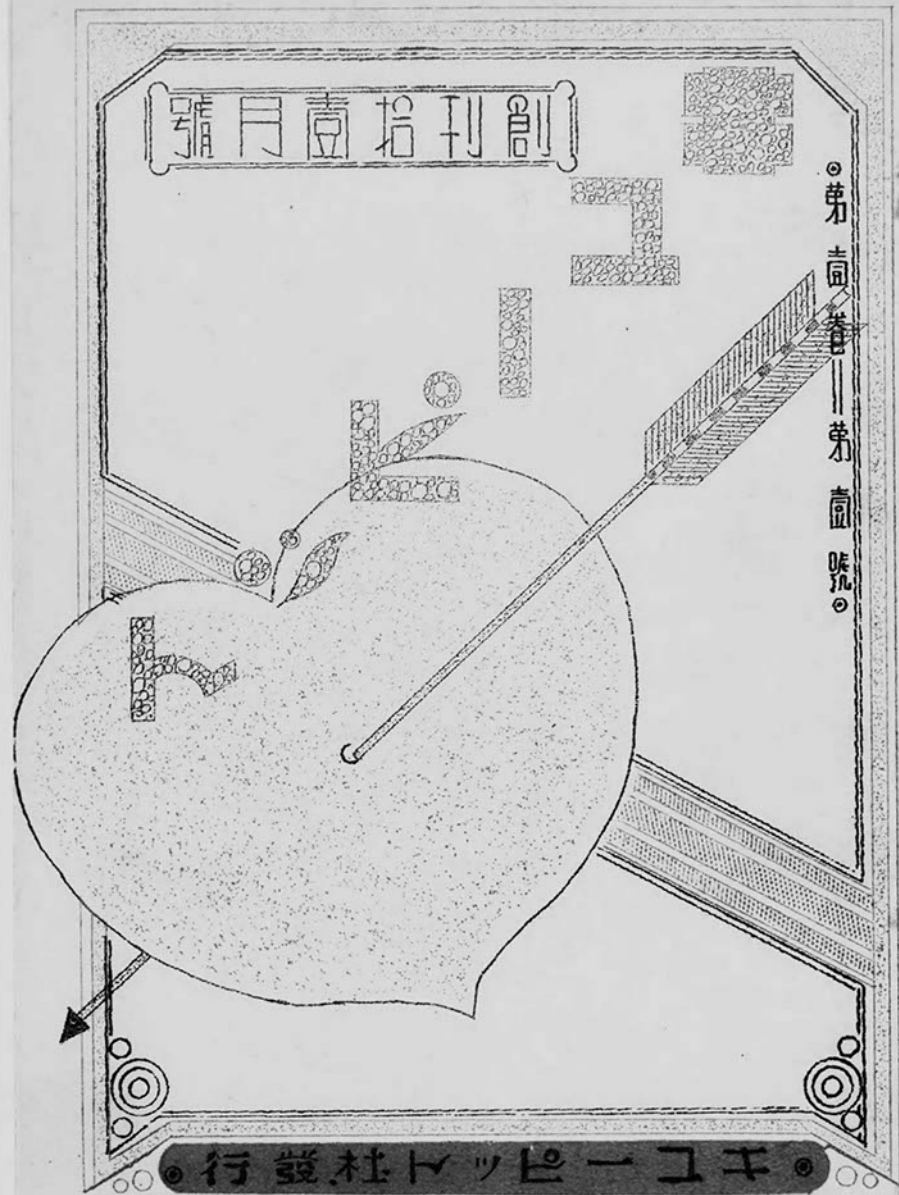




月刊壹拾月號

第壹卷 第壹號

キユーピートッポロ行



世帯主の健康
に役立つ
健康食品

津料理
おでん
かん酒
玉酢醬 --- ニ ---
松の家

大評判の三井物産銀行の
ウマイ 食 店
ヤスイ 洋菓子部
電話 四一七番
福島・宮城・岩手一手販賣
新案特許・自転車傘立器
可愛お子様ニナクテナラヌ虫切菓子

津料理



津み家

平南町五丁目番地

河岸通り

膳阿印刷と
諸廣告一般
平大町三一丁目
TEL 333

三井物産銀行
三井物産

エコーピット
創刊誌

次



新刊の辞に代へて
放浪の想ひ出
紅燈籠物語 辰子の巻
ネオンの下
電気屋さんが語るカフェーの小話 東電社報
自己疑現
亜の銀スラ
日崗生活十訓



東京ABC倶楽部を語る……………英治
 腦みの種カフエーのケツスに對する意見
 カフエー巡礼サロン春……………英治
 廿給諸覽に告ぐ……………魚源生
 無料廣告掲載覽
 併刊を祝す……………一の井主
 編輯後記
 キュービット在華現

併刊の辞に代へて

大谷 龍雄

春はねむり。夏は行き。秋又去らんとする春を起し
 夏を呼び。秋を。と。め。我れ。この。に。生る。
 同向の士。これに等。これを唱ふ。
 夫。文藝の先驅本書ならんや
 文學の抱負。文藝の高直。ひとり本書に召す。
 希くは諸兄姉よ。未跡への期待と共に。
 大に振ひ。大に御奮闘。當るなり

● 祝 創 刊 ●

久

丁半五

釜屋商店

電話 九、九九番

平材木町

開興人行社

鉄道省御用

平三 丸ノ内三ハ三

又保田パン屋

好文堂印刷所

丁三 電一七五

平古鍛冶町

水

早川重治

材

電話 五八四

美火川給四五名至急入用

カ
エ

OK

祝 開店

カフエ

カ
フ
エ

共
立

エコーピット社

編輯部一同

…ドウソコノウラヲ…

急 告

突如!! 南町通り。

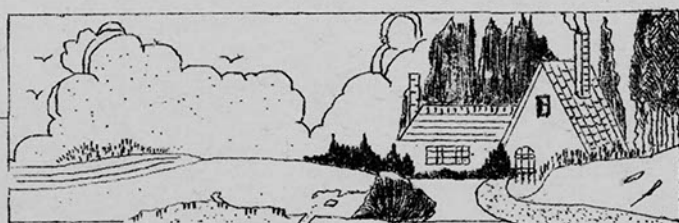
元オリエンタルカフェーの跡に、皆様の樂園が生れ
ました。サービスとメニューリストに——大改善を
致し従事の方フェーとは根本的に其の趣を異に
した文字通り、皆様のパラダイスとし、断然誇り得る
事を確信致して居ります。何卒末長く御引立
御指導の程切に、くお願ひ致します。

○カフェー、パラダイス、宣傳部
平南町、エンワニハ三

放浪の想ひ

英治

夜空高く星又青く輝く深秋の長夜を
灯下に慕ふ。過ぎし昔の幼影は
苦しくも我が脳裡を走らす。おゝなつか
のふる里。想ひ出の我がともよ。
兄妹。母よ。——いとしき我が君よ。
今は何處によわします。いつまで
つゞく限りなき。今日は東に明日西
と流れし放浪の旅空に慰めくれるか
銀岡よ。なれ——思ひは、いや増して
幼影走馬よいつの日に止む……



秋の夜空に天の川の

光つてゐた。

流星一つ天命を

細く東南へ――

今日の日も

も――

はちまたいつ

金と言ふて銭

が北てばかりな

送つてゐる幾多

血みどろな生活

ゐるのである。記者は

訪ふて彼女の語へを涙を流してきいてゐる。そして拙文に
諸兄姉にお傳へするのである。――

緑星は種々として

――櫻ヶ岡に落る

暗示するかの

流れ方

明日の日

の日も

鎖につな

い日月を

の若きな肉体が

に置きまゐいて

一日某家の咲子を

――



「特典」掲載篇には薄謝を呈す
誌上の匿名は差支へ有りません

原稿には住所本名を明記し

一メ 切川毎四拾五日迄

一 投稿先川本社編輯部

一 王太町三二番地

キユービィ館



ネオンの下

サニシ

黄金の波を打返して、と風柳との片言も本心は土臭へと笑へた

き谷ヶ瀬の田圃も只新川を境に 目と鼻との間、南圃一つに

ナンナヨウとして余り花の都も暗に眠かすかの如く、二三流どこの

着象の、なははりと傳へられは昔のゆめ

鬼でも蛇でも二筋の糸にかけて裸踊をさせし全盛の、田圃は

今は去り北、着殿の足跡のみ残りて夜の夜も辻切の二三有ると

の晴せらる昨日今日獨り、カフアーのみ名残を止めて

日夜不況の風に吹きまゝら北浮世に浮きかねたる今日も、なほ

シヤスの音高く秋空を澄ませてと足を引いて居るは、眞の都の

花所南圃とぞなりぬ シヤスの音に引かれて走る人赤い、

ネオンを慕へて集る者皆ナンナヨウイノ、――

移北は変わる世のならいな、から余に移り行きてしを獨り嘆きつゝ、

牛に引かれ垂いネオンを訪へは牛でも馬でも無く、

案外の中身に似なる乙女四五人、――

どうぞと笑窪を見せて親切に案内せらる進められまいに
おックスに納まり今更に兎返せは三千年に傳へて
二兎の頭取りノ、に不夜城の全盛も、シヤズの音に打消して
赤い酒もて生れたる姫君これぞ北とウサズかる
お名前はと問へば宗子と答ふ。お年はと健げは笑窪を深くして
回をたたくする。眞に慕はしくシヤズの影に斷髪ありとのみ
他得たる今日椰子の木蔭で、ヒナづるに会いたる感に打たれぬ
このヒナづる、いつまで、ヒナづるを、そのまゝの
ヒナづるに置かれし。
而し以の木に以の鳥宿るのちとい。
そのまゝに永久に宿して。
丹頂のづると飾つたし。飾られし……………終

電氣屋さんが語る

カフエー小話

東京京橋の一角に賑ふ某カフエーで
電灯料金を十一ヶ岡も滞納せざるため係員出張し――
送電を中止せんとしちが美し、ワタムは疾くらに――
係員に今少しの穂子を希つた。
然し社法は曲はられず断然急になつて電灯を切つて
しまつた。

電灯を切られた。カフエーはどうすればよいのか？
二三日すぎて、気がいりならない係員はどうなつて
ゐるか恐る／＼見に行つた。
然しどうした事だらう。前に描した景氣よい営業ぶり
には些か期待を裏切られ形をうつた。
実は電灯を切られ、窮すれば通さぬの諺通りワタム
此處に一策を案せりである……………

といふのは、ホツワス毎に少さなろうそく、
一本宛立ていある方だけ

甚を闇である。これに加へて、○○サービス何とこの
不況に顧客吸集策ではありませんか。

この節の「コワイ」おじさんがこれを
まゝしつて、

早速ワムを
を所

電料料を掛へ
電気屋さんが
のです

あれではいか
なら、どうぞ



下さい。には、さすがの係官も、な

電料料を、お借
んとおしやる

口換取調べ

ないので、

切つて行つた

③ 己 疑 視

其 一

ま あ 生

平恒な道を平凡な歩調で歩いてゐる時私らは大抵自己の存在
に無関心である。反省のふり薄つぺうな生活に正気で居る。

ソワテスの「自己の愚を知れるものは賢いなり」
の名言を応じてゐるらしい私しらは果して常に自分自身の能
力、価値を認識して行動し生活して居るのであらうか。

正しい自分をハッキリと疑潜して歩くのである。うの
或は高慢な自己卑屈な自分それらは決して私ら自身でかいことを

しつゝある生活の破綻と生の悲劇はこうして自己省察の
ない無反省の原因するではなからうか。深い反省と鋭い自己検

討のない生活は不幸である。前懐し易いことでは時私らの過
去をふりがへつて因やう過去との私達は安んずる協の影に揺る

影法師ではなかつたらうか。權威や困難に無條件で屈服する無
自覚者ではなかつたらうか。盲目的な妥協は自己の存在を無視

するものであり自己を否定するものである。不和雷同の如き
態度は斷じて避くべきである。盲目的な妥協無意識な肯定する

ものである。卑しい阿諛の如きは自己欺瞞の生活である。マールと知
うなければなるまい。

私らは又井蛙的の人間をよ、みる。自己の美点のみを見え出して吹聴して高慢
な分子に時々逢着する。いやこれは人ごとでは無いがそれが果して自己を成功させ
る道であらうか。歩みの停滞、生活の崩壊をかうした人間に尋く。私らはみ
うける。自己の伸長には、己れの実実と共に欠点を知る必要はあつた。
うが。これはいづれも鋭い凝視の欠けた人間生活である。私らはア。ホロの
神殿に刻れた。汝自身を知れ。の神の名言は例へ陳腐的な言葉であ
るとして、も常に心得すべきであらう。そして、私らはつねに及省に生きるこ
とを忘れてはならない。及省を忘れた人間生活は、発展性を欠いた生活
であり、人間が人間であるための努力を没却した生活である。それには生
活の退る人も人生の向上も進歩もあり得ない。

人間は慾望を出発点として生きてゐる。慾望は本能的であり、感
情的であり、非理的である。苦悶、美醜の価値判断に無関心である
慾望自身は、せんでもあつてもない。たゞ人間がこれをいかに用ゐる
かによつて善と悪としかる。

(つゞき)

平の銀座

都　ど　り

東京から初めて平へやつて来て初めてフラノへ散歩に出掛けを
なると朗かな我ながらやである。

登ります。ところ、平駅前より根本時計店を左に曲つて行く。――
出来た。このパン、美味なパン。滋養のパン。安い。パン。親切な――
パン屋としての、又保田パン屋なん。と色々なパンパンの――
連をくぐつてある。――と、さく所。これ、標榜語であり、信條を――
いふ事をきいてゐるので、金、参拾銭也を、ポツケット――
フネーから計として、お買上げになつた。フト、向ふお見れは
フツヤと言ふ。糸るい専門と言店があり、前を見ると――
バツカスと言ふ。カフエーの女給が、チャムなウインワ……
ペパーミントのほのかなほろよい。在店二十分に、――
フラノへ出て。フラノへ入つたのが、どこかが認めないが、――
サロンの装置サービスマン。レットル。其に、右点のところ。ジンの魔窟はに

るつかり、八重ちゃんのとてサービスに我れ大に万足せりであらう。

八重ちゃんのとて

歸もエシ

其れに

哀愁に

思ひ出

まゆち

なつて

をぎい

外へ出

オーケー・ト言ふカフエー、ちつち事に気がついたのである

再び寐しすまようち商店街を、魚清食肉、藤市、新井文館、

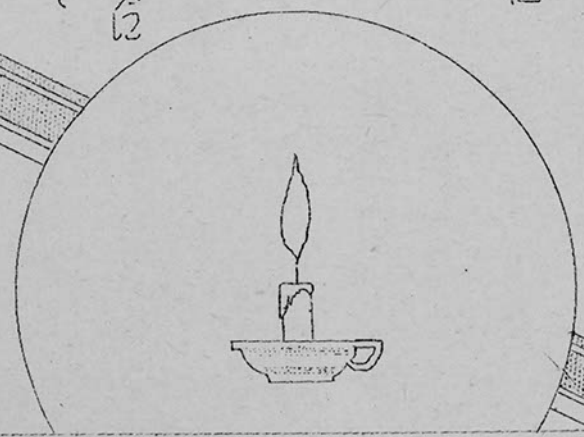
藤よし、三共食を左り曲り、その名もゆかしき、南町へ行く、



そふラの
ビルの
細く
ほえみ
に全身
の様に
マラキテネ
くら
を初めて

日 常 生 活 十 訓

- 一、朝起は爽やかにすつきりと勢よく
- 二、家の内の者には晴やかに快活に和やかに
- 三、外の人には愛想よく誠実に隔意なく
- 四、一口の職務は敏活に几帳面に落度なく
- 五、食事は楽しくおいしく仲よく
- 六、休息は軽くおなごかに愉快に
- 七、雑務は縮れいにさつぱりと全部を
- 八、一口の行爲は注意してつゝしんで誤らずに
- 九、一口の反省はすべてを床の中で落付いて
- 十、就寝はやばらかに静かにゆつたりと



東京 ABC 倶楽部を語了

英治

東京浅草の片隅に、カソナリ（結行）のち給俱樂部はなせか世々に知られてゐない。何故なうう…それは会民白鳩の女王事牛伏ちやんの意志で秘密主義をかうた。この俱樂部の仕事と使命は崩れかけてゐる女給商賣を復活させ、併展させ弱い女同志の強い団体ともいふべき俱樂部なのである。一人の会員の不幸は全会員の不幸とし、一人の会員のよろこびは全会員のよろこびとし、手に手組合せて社會、戰線へ向つてゐるのを、当地即ち、巫山にもこの如き、女給俱樂部の一個位あつてもよいものか、東京女給俱樂部を設立せよ。

英治

悩みの種に力をつける

ツ
ツ
ノ
に
對する意見
(一)

到著順

皆様が、リカフエーに遊びに行かれる時

一番気になる事は、日女給せんに日をいするリケツスの額

であらうと思われ、北まですり少なくて、ピサースイスの

良い事を頼う事は、何れも、同事であると思います

つりては皆々様の「最も」「平頭」としての「ケツ」に

■ 目をいす。好意見募集致します。

文藝家畑耕一

一
と五拾銭が相當でせう。

なにしろこの頃は、ワカツテ

来るから一やつて居ては

やりき北ない。

滿洲中姐 永田美郡子

ヨリ人々行フコトアル

日本姑娘一五一地錢。

一圓
キメ
ルコトヨロシイ

文藝家 伊藤和夫

その時々の特にもよるが

まあ勘定の一二割程度が、

特加より、サツル諸其勘定され

は不ゆかいである而も其にしいのになると。

傳栗見せしむにインサキスルワビどすきる

カフアー巡礼

サロンス

・英 治:

サラリーを、もらつて、夜になつた。こりやあじつとしてはいらぬねい。南町通りをフラツいて、カフアー、を訪ねたナナ。とは佛蘭西文学で口徳ナナといふ。

小説があつたが、こんなところからヒントを得たものぢやねいのかな。危ね角マッダリンを注文した。

肉体美ウエーワ、みどりさんのお話して、エキミナツワ

な、レコード、スランデー、ベルモット、レイオレット

と洋酒オンパレードの総上げをやつて、

時と共にそろ／＼意識甚だ不明瞭になつて来た。

このマダムは東京銀座の○○カフアーサロンス春で

おなじみの、ベッピンだ。

みどりちゃんの上生かんに大に賛成して、

おとなりの一の井へ入つた。

○見よ……願して、サ給諸賢に告ぐ

サ給諸賢諸区よ、ク元述し給ふ勿也

あつた

今更斯様な古臭い問答を、奥地奥臭く書き上れるのも何んとなく、書きにくき事で有ります。が拙文を、幸にして讀者諸氏より御愛讀あらば筆者の最も幸甚とする處で有ります。サ給と言ふと、筆者が今こゝに事新を、申し上れるまでも無く世間一般の唯此彼れとなく、一口にサ給かと冷や、かな眼で見ろのが普通一般の目習であるかの様に見えけられ居ります。が否一口にサ給かと世間から冷や、かな眼で見ろ居るの、ではなくして……サ給諸氏諸賢も、負等達がどうした冷や、かな眼で見ろ居る様な態度を取つて居るの、ではなくして、ようかカフアー、サ給商賣と言へ、其も「否」立はなると、この職業婦人と、旅言してもあつて過言では有るまいと思へます。が、どうかすると、自分自身が、自分の口から此らう、どうは神聖なる可き處の立は清らかなる職業意識を、忘れて、いるかの様に、職業を「理解」せず、一種の遊戯的に、取りあつかひ居るが、ために世間一般の人達からも冷や、かな眼で見られる様にも成り、又甚だしきに至つては一家の主と達にも、不も、

難様な誤解を招く様も成るのではなからうかしと思ふのであります。が賢明なる女給諸氏諸賢に於ては賢くは申すにふさはす。主として一切に至るまで神聖なる職業に在りて虚榮心に於らず。職業を理解しサーウエスル点には萬事の成る有る事を信じて止ぬのであるが自身達のサーウエスルの所感如何に立派な。職業婦人として雄しくも社会の荒波を闘ひ生活の第一線に立ち。青春の血にもしもいかなる希望の血に向つて華々しく。突進して居るやいかに立派な職業婦人として立ち働き居る諸賢。諸氏の所感も。おまゝ、こようでは有ませんか。

賢明なる女給諸氏諸賢の御回答如何に。

次号 拾三回号 御期待下さいませ。

◎ 廣 告 ◎

旅館料理店カフエー 営業主へ告ぐ

「ツワリ」女中・女給入用の方は御一報次第。このうんへ。無料にて。欄外廣告致しますから御遠慮な御申下し下さい。

平銀座通り。女給四五名至急入用。●平南町。一のサ。女給三名至急入用。●全ナナ。四五名女給入用。●タイヤ。二三名至急入用。

刊 登 料 金

ランゲーム 一の井を

強は在るの甘指場々々のカフエーで一オ一格のドレスロウをの。んで渡る傾から一百年。總の乃北んや組の乃北んに「越後屋」などといふ抜りたのを下はて居るの。が花や外なカーテンと変り。サトウ三郎の曲線がコマツチャワレな體迅が玄關ホーイと変り。黒袴にハツタレの前掛が訪問着と移り男が節がシヤズと進んで。以て殊更ニ三丁の全盛サトウイスの戸高く。ヤヤもする。と暗に流転んとする今日の世相に一大針影を打たれた様な感じがする。更に「ホエー」の生れこそ。カフエー界の発展の光明として。大盛氏の度力こそ。カフエー界の諸兄の披露と。私其の御料理からテトスル男のサーウエスに至る意と談上た。かゝりて親談より。善に改善より発展の指導期間として。待つところ大いなるを我々とせう。いのであります。

拙文を以て貴誌の発展をお祈申上ると共に。お客様各位の。御自愛と益々御指導の芳敷御披露を御願ひ申上ります。

冬

キユービット社 華規

本社ヲ繼續スルヲメニ毎回会費トシテ
金三十先ヲお納願ひます。

会費ヲ納ル方ハ会員トシテキユービット
ヲ發行毎回一部を贈呈致しませ
本社ノために特に御甚力下さる方ハ
同人として「キユービット」發行「毎回三部」
を贈呈し致します。

同人今会員諸氏ノ左記御寄稿を
觀迎致します。

評論・創作・小品・短歌・俳句・
其他・但シ時事ニふれないもの・
原稿ハ「毎月二〇日」までに願ひます。
締切後は次号へ廻します。
原稿の一切は編輯者におま
かせ願ひます。

「キユービット」は「毎月拾日」發行す。

昭和七年

十一月七日（納本）
十一月十日（發行）

（會費 參拾錢）

編輯兼 福島縣平大町三一

◎ 編輯兼 行 大 谷 龍 雄

◎ 印刷 全 平大町三一 大 谷 幸 次 郎

◎ 印刷所 全 平大町三一 工一〇一〇 禮 岡 堂

◎ 發行所 全 平大町三一 工一〇一〇 キユービット社



◎ 本社・編輯部は
「平大町三一」

高級諸君 看板
金文字製作

自動車吸付塗

平南町

石山精萃堂

電話・五七七 番

十花類なり

平南町の

緑屋へ

どうぞ

諸君の

御用命は

電 583

只野塗主店へ

平大町三一



城 青 年 學 校

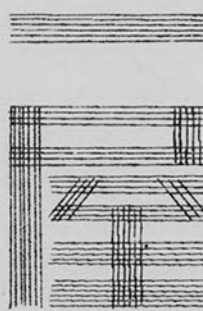
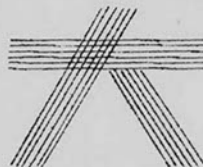
心會



平南町行部

平南堤の山二二

電話・六六五

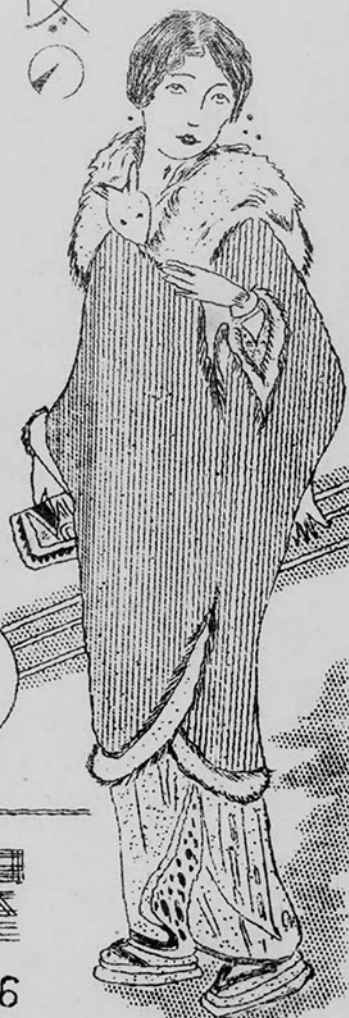


電話・一三 番

今更の

涼シヨールは大黒屋で

モダン好に・いき好みに・洗好みに・どうぞ
特に力を入れた当店のシヨール部御らん下さい・



断然!! ネワワイです

彼氏へのフレンドは!!

¥.30 ヨリ

¥2.50 マダ

大黒屋
三猿文庫
平三電 116